

## 建設業経理士試験 1 級 (財務分析)

### まずはウォーミングアップ

#### ①建設業は許可制度

軽微な工事（請負代金 1,500 万以下 or 木造住宅工事で 150 m<sup>2</sup>未満の工事）以外は国土交通大臣・都道府県知事の許可がある。特に特定建設業の場合は流動比率が 75%以上という要件があるので、分析の視点は必要ですね。

②公共工事は一般競争入札（指名競争入札は業者名がわかるので談合に入りやすい）  
質の向上がテーマ→総合評価方式（価格と技術の両面から落札者を決める方法）

#### ③経営事項審査

公共工事受注の資格試験のようなもの

「経営状況」「経営規模・技術的能力など」を数値化

経営規模

（完成工事高）・・・25%

（自己資本、営業利益＋減価償却費）・・・15%

経営状況

（負債抵抗力）（収益性）（健全性）など・・・20%

技術力 25%、その他 15%

※建設業経理士の在籍点数は「その他 15%」に入ります

公認会計士・税理士・建設業経理士 1 級在籍者→自主監査による 2 点

在籍点（公認会計士・税理士・建設業経理士 1 級）人数×1+建設業経理士 2 級人数×0.4

年間平均工事高 10 億円未満の場合 1 級 1 人と 2 級 1 人で最大点の 10 点になります

あわせて 12 点（計算式にあてはめると 1,919 点中 114 点の加算要因となります）

財務数値の管理が企業の成果につながる

## 第1部 財務分析の基礎

### 本日のテーマ

- ①経営分析って？
- ②BS分析とPL分析（静態論と動態論）
- ③誰のための財務分析？
- ④資本の連動サイクル→正常営業循環基準とは？
- ⑤分析体験会（少し試してみよう）



#### 1-4 財務分析の目的と主体

主体→誰が作るのか？ではなく誰が利用するのか？

投資家

株主

金融機関

監査人

税務署

組合

企業

トップマネジメント  
ミドルマネジメント  
比率分析・実数分析  
差異分析（内部分析のみ）

## 1-5 財務分析による確認目的

資本の連動サイクル

- ①資金の調達(現金／借入金)
- ②購入 (商品／現金)
- ③消費 (売上原価／商品)
- ④販売 (売掛金／売上)
- ⑤回収 (現金／売掛金)

③④→売上総利益の分析

このサイクルを組み合わせて下記の分析を行う (第2版 P187-188 の68期参照)

①収益性分析 (もうけ≒利益の分析)

売上総利益・営業利益・経常利益・当期純利益

売上高経常利益率→68期 2.12%

総資産当期純利益率 (ROA) →1.02%

②活動性 (売上)

回転率 (単位は回) : 寿司屋の1回転で考えよう

総資本回転率→1.45回

③生産性 (効率)

通常は付加価値の分析が中心

これは、詳細なデータがあるので後日

④流動性 (短期の安全性)

1年以内の回収可能性と1年以内の支払い可能性の比較

流動比率 116.30% (建設業の特性→ $(7,576-2,402) \div (6,514-1,749) = 108.5\%$ )

当座比率 (当座のシノギ→厳格に: 現預金+売掛金+有価証券)

⑤健全性

自己資本比率 (資本構造分析)

固定比率 (設備投資と調達のバランス)

⑥成長性

対前年比と伸び率の違い

⑦資金変動性

資金運用表とキャッシュフロー計算書があるが、最近の傾向はCF計算書でしょう

## 本日のまとめと余談

①経営分析どうでしたか？

②今日の内容から出題項目を確認してみよう

第22回5問(問1)A

自己資本経常利益率

$$\frac{\text{経常利益 } 20,000}{\text{純資産平均値 } (77,000 + 80,000) \div 2}$$

→25.48% (第3位四捨五入)

※なぜ平均するのですか？